

『江戸の日本刀 新刀・新々刀の歴史的背景』正誤表

〈正誤表…追記も含む〉

誤

正

- | | | |
|-------|---|---|
| 1 3 頁 | 刀剣傷は1%も満たない | ↓刀剣傷は1%にも満たない |
| 2 9 頁 | ムザムザと撃たれる | ↓ムザムザと討たれる |
| 5 3 頁 | 三代將軍家光の業績を記した『敵有院殿御実紀』における明暦三年(一六五七)六月の | ↓四代將軍家綱の業績を記した『敵有院殿御実紀』における明暦三年(一六五七)五月の |
| 5 3 頁 | 「阿部豊後守忠秋の別にて」 | ↓「阿部豊後守忠秋の別墅にて」 |
| 5 7 頁 | 山野加右衛門尉 | ↓山野加右衛門(59頁、248頁も同様) |
| 5 7 頁 | 山田浅右衛門尉 | ↓山田浅右衛門 |
| 7 4 頁 | 焼失した名物八〇振が含まれている | ↓他に焼失した名物が八〇振である |
| 7 7 頁 | 表中の年号表記「慶応」 | ↓「慶安」 |
| 9 4 頁 | 米公方と呼ばれた。 | ↓米公方と呼ばれた。(二九四頁「江戸の米価の推移」表参照。享保期は米価が低迷していることがわかる) |

- | | | |
|---------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 2 5 頁 | 神田白龍子 | ↓神田白龍子(二代)(174頁も同様) |
| 1 3 3 頁 | 「寺子屋開業の状況」表の1.286、8.675、10.296 ヲピリオ | ↓桁数を示すカンマ表記 1.286、8.675、10.296 に修正 |

↓表記は誤り

- | | | |
|---------|---------------------|---|
| 1 6 9 頁 | 大黒屋光太夫の話をまとめ | ↓大黒屋光太夫の話を『北槎聞略』にまとめる |
| 2 6 0 頁 | 幕臣窪田清音の支援を受けて鍛冶に励む。 | ↓幕臣窪田清音の支援を受けて鍛冶に励む。(天保二年に一度出府して窪田清音の為に脇差を作刀している。27章参照) |

- | | | |
|---------|-----------|------------|
| 2 7 6 頁 | 樋口(2箇所) | ↓樋口(2箇所) |
| 3 1 0 頁 | オランダ商館長など | ↓オランダ商館長など |

〈補足〉 平成三十一年二月

- | | |
|---------|--|
| 4 9 頁 | 慶長一八年のキリシタン禁教令時点での信徒数を二八万〇三〇万人と書いたが、近年は三七万人の信徒数とする資料がある(原典は確認していないが歴史学者神田千里氏、国際関係論学者大泉光一氏の著作に引用されている)。 |
| 5 3 頁 | 將軍が試刀に立ち会ったのは明暦三年五月二十九日(『徳川実紀』より)。 |
| 1 2 5 頁 | 神田白竜子(二代)と修正したが、二代が講談の神田派初代神田伯竜(『日本刀大百科事典2』『神田白竜子』の項参照)だと時代が合わず、また伯竜が刀剣に造詣があったかも疑問である。この話の出典『北窓瑣談』の検証が必要か。 |

- | | |
|---------|---|
| 1 9 1 頁 | 「大慶直胤の旅(刻印の地)」の表において、佐倉には嘉永五年にも訪問していること、弟子に遠藤直桓がいることが明らかにされる(「佐倉藩幕末刀工事情」(井原重之著「麗」622号平成二十九年十月号)より)。 |
|---------|---|